

「我が真に望むのは、皆の平和な暮らしが守られることである」

ホワイト・ライオン

森川 天喜（もりかわ あき）／著
幻冬舎メディアコンサルティング
204p F/㊦



二人の英雄、ホワイティア公とレディア公が覇権を争った「夜明けの大戦」。この戦を制したのは、レディア公だった。数年の歳月が流れ、ホワイティア公の遺児・三の君は、東国から反乱の狼煙を挙げる。それは大きな渦となり、人々の運命を変えてゆく。源氏と平氏の争乱を基にした幻想戦記。

「ウイルスや細菌が侵入してくると、からだのほうも黙ってはいません。」

みんなに話したくなる

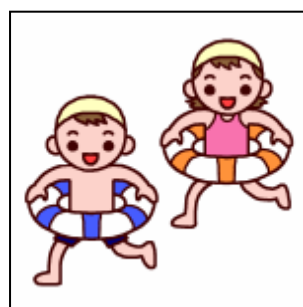
感染症のはなし

14歳からのウイルス・細菌・免疫入門



仲野 徹（なかの とおる）／著
河出書房新社 283p TE/49/㊦

「ウイルス」と「細菌」が引き起こす病気についての説明とともに、それらを防御するための「免疫」をわかりやすく解説。病気は怖いから読みたくない？ 怖い事こそ読んで学ぼう。感染症が猛威を振るう今だからこそ読んでほしい本。



Teens向き

なつやす としよ 2021年夏休みすいせん図書

なつやす どくしよ
夏休みは、どっさり読書!!

おお いそ ちよう りつ と しよ かん
大磯町立図書館

0463-61-3002

「先生は、生まれてから2万1915日だよ」

天才ルーシーの計算ちがい

ステイシー・マカナルティ／著
田中 奈津子（たなか なつこ）／訳
講談社 287p TE/F3/㊦



4年前、8歳のルーシーは、雷に打たれ、数学の天才に生まれ変わった。そして、飛び級で大学にも行けることになった12歳のある日、おばあちゃんに「1年間中学校に通う」「友だちを1人作る」「数学以外の本を読む」などの課題を出される。天才少女が、人との触れ合いの大切さを学ぶ物語。

「家庭用のゲーム機として、性能が高いのがウリだった。テレビゲームのおもしろさを世界中に知らしめた」

昔のくらし昔の道具これなあに？

春風亭 昇太（しゅんぷうてい しょうた）／著
小林 克（こばやし かつ）／監修
幻冬舎 127p 38/㊦



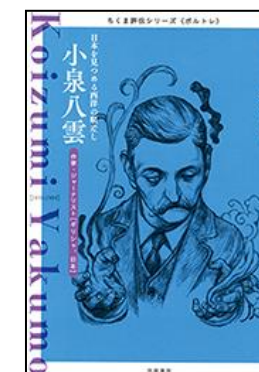
私たちは、生活する上でたくさんの「道具」を使っている。そして、江戸から昭和時代にかけて誕生した道具には、かまど、こたつ、扇風機、電話機、カメラ、テレビ、ゲーム機など、様々なものがある。「くらしをもっと便利にしたい」という強い願いで生まれた道具たちを紹介する。

「なぜ私はこんなにも日本に魅せられたのだろうか」

小泉八雲

日本を見つめる西洋の眼差し

筑摩書房編集部／著
筑摩書房 188p TE/930/㊦



ラフカディオ・ハーンは、世界各地を転々とした末、日本に帰化し、小泉八雲という名前を持った。もともとなった話を独自の解釈と文体で作り直す創作形態「再話」によって、八雲が編んだ「耳なし芳一」など日本の怪談は今も広く読まれ、親しまれている。作家、翻訳家、ジャーナリスト、教師、民俗学者、文明批評家と多彩な活動を行った人生を辿る。

「もっと、話をしたらよかった。おばあちゃんの話をおちゃんと聞けばよかった。前は、きらいとまで思ったこともある。でも、今日は好き」

ドーナツの歩道橋

升井 純子（ますい じゅんこ）／著
ポプラ社 278p TE/F/㊦



高校生一年生の安堂麦菜の家に、半年前からおばあちゃんが、いっしょに暮すようになった。かつては、保育園児の麦菜によくドーナツを作ってくれたおばあちゃん。今はその思い出がくずれていく。円形の歩道橋を渡りながら、新しい学校と介護が必要な家族のことで、心揺れる少女の日々をえがく。

